

“行くと心が安らかになれる” そういうお寺でありたい

萬福寺 住職 安本 由道

「共に向き合う」いま、私達は多くの苦難に直面しています。新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により多くの尊い命が失われ、また近年頻発する自然災害におきましても、私たちに大きな痛みをもたらしています。

お釈迦様は、私たちは本来悩み苦しむ存在であり、相手と自分は違う存在だと説かれました。またお互いに関わり合い、支え合いながら共に生きている存在であるため、相手が悩み苦しんでいる限り、自分自身も安心は得られないと説かれ、相手の悩み苦しみを自分のこととして受け止めていました。

悩みが深まり、その物事に執着しすぎると一人ではなかなか先に進めなくなってしまうことがあります。寄り添う相手、共に歩んでくれる人の存在が大切になるのです。私たちが心がけていかなければいけないのは、相手と同じ目線で向き合い心を同じくしていく和合であり同行です。「お寺へ行くと共に心が安らかになれる」、そのような菩提寺でありたいと願います。



萬福寺 アルバム

カキツバタ咲く中庭

先代の安本利正ご住職が中庭に植えられたカキツバタが、今年もきれいに花を咲かせました（令和3年4月30日、萬福寺中庭）。



きれいに剪定された墓地の植栽

萬福寺では年2回、お墓の植栽の剪定を行っています。今年も大田区久が原の醍醐園さんにより、きれいに高木が刈り揃えられました（令和3年4月30日）。

